

第10回 吉野町子ども・子育て会議

会議要旨

■日時： 平成29年10月31日（火）PM7：00～9：10

■場所： 町中央公民館5階 閲覧室

■出席者：

	氏名	所属・役職名等
1	池田 宗士郎	吉野町連合 PTA 代表
2	上田 正行	吉野町区長連合会代表
3	佐々木 淳	わかばこども園保護者代表
4	中東 郁雄	小中学校長代表
5	中前 照美	よしのこども園長
6	中山 智美	わかばこども園長
7	林 豊子	公募委員
8	藪坂 眞佐	吉野町議会議員
9	山本 智康	よしのこども園保護者代表
10	和田 公子	奈良佐保短期大学地域こども学科 客員教授

※石田委員・木本委員欠席

■配付資料

吉野町子ども・子育て会議委員名簿

吉野町子ども・子育て会議に係る条例

吉野町認定こども園の定員と利用状況

幼児期の学校教育・保育の計画と実績と見直し

地域子ども・子育て支援事業の計画と実績と見直し

【はじめに】

ただいまより、第10回吉野町子ども・子育て会議を開催させていただきます。まずはじめに、今回より新しくご参加いただいております委員の方をご紹介します。吉野町議会議員の藪坂眞佐様です。小中学校長代表の山本聡様です。どうぞよろしくお願ひします。

事務局の職員紹介

後日議事録を作成させていただくために、会議の様様を録音させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

資料確認

【出席委員数報告】

現在の出席委員は12名中9名です。なお石田委員と戌亥委員代理の木本委員より欠席のご連絡をいただいております。なお池田委員は少し遅れるとご連絡をいただいております。会議条例第6条第2号に基づき定足数に達しておりますので会議は成立しております。

【会長挨拶】

こんばんは。皆様お久しぶりでございます。先日支援センターで「パパと一緒に遊ぼう」を開催しました。ママは別室で私が講座をしました。パパは支援センターのスタッフと県の職員、そして吉野町の方においでいただきました。パパ講座の中身は県の木材でカスタネットを作ろうという内容で、カスタネットは素敵な音が鳴りました。吉野杉なんですよと紹介いただき、私も「31日吉野に行くんですよ、奇遇ですね」と話していました。先ほど教育長先生ともお話していたのですが、父親の育児参加が叫ばれますが、お父さんと子どもたち、そこにお母さんが入るとどうしてもお母さんの方に行ってしまうし、どうしても家族単位で話をしてしまいます。お父さん同士の繋がりもあって欲しいと思います。また男性はいつまでたっても少年の部分があります。なので子どもと遊ぶ時本気で遊んでくれます。その本気で遊んでくださる思いを大切にしたいと思います。女性がダメなのではなく、女性はいつ周りの子ども達と比べてしまったり、私の事を誰かが見ているとつい思ってしまいます。この講座は8月と今回の2回で、来年度はもう少し増やしたいなと思っています。吉野の木材を使ったイベントができないかなと思っています。その節はぜひどうぞよろしくお願いいたします。挨拶がすっかり長くなりましたがご縁があって嬉しかったのでご紹介させていただきました。

【署名委員】

上田委員、林委員よろしくお願いいたします。

【議事】

それでは議事1「子ども子育て支援事業計画の進捗状況と中間年の見直しについて」を議事といたします。まず①こども園・学童保育所の入園（所）状況について、②幼児期の学校教育・保育について、事務局よろしくお願いいたします。

(事務局)

資料に沿って説明

(会長)

細かい数字をあげ、量の見込みについて変更していただきました。これについて何かご質問等ございますでしょうか。

(委員)

1号認定の量の見込みが63から38に減っているのですが、これは子どもの人数が減ったからですか。それに対して保育の方は、増えているのですね。

(事務局)

推定児童数に平成28年度の1号認定と2号認定の利用児の割合をかけて数字を出しました。推定児童数は80人と見込み、1号認定児の割合0.48をかけ数字を出しました。できるだけ実際にご利用いただいている子どもの人数に近くなる数字として見直しをさせていただきます。

(会長)

保育が必要な子ども、お母さんが仕事をしている、また、お子様を預けて仕事を始められる方が吉野でも増えているのだと思います。また全国的に幼稚園の就園率が下がっているように思います。保育園の受け皿が足りなくてどのように受け皿を確保するのが、難しい問題ではあります。その点、吉野町は早くにこども園に移行していただいて、スムーズに保護者のニーズにお答えいただいているのではないかと思います。

(委員)

1号認定の減った人数が2号認定に移行したとしても、見直し年度(28年度)の差が3になるので、実際には教育のみではなく保育の必要な子が増えているのは実態だと思います。

(会長)

続いて③地域子ども・子育て支援事業の実績および見直しについて事務局のほうからご説明いただきます。

(事務局)

資料に添って説明

(会長)

少しずつ当初の見込みと違ってきたところもありますので、見込みを現実に合わせて見直しをしていただきました。それぞれの事業でこの見直しはどうかというようなご意見もおありかと思いますが、そのあたり積極的にご意見をいただけたらと思います。

学童保育も約3分の1の児童が利用されているようです。

(委員)

数字の見直しは当然な数字があがってきていると思います。

実費徴収に係る補足給付に行う事業について、国に申請していただけるのはありがたいですが、例えば準要保護家庭で何が問題になっているかという、4月の入学時に本当はお金が欲しいけれど、吉野町からは7月しかお金が入ってこない。立て替えることが貧困家庭では難しく、3月にそのお金がもらえたら子ども達が4月に持って行く物を揃えることができます。全国的に切実な声で、奈良県のいくつかの市町村がやっていると思います。ですので、4月に必要な物を3月に買える制度を作っていただきたいのと、内容を更に充実して、準要保護家庭も生活保護に準じるものとして3月に出せるよう、前倒しの予算編成をしてもらえたら助かると思います。ニーズ調査で貧困家庭の皆さんの生の声は出てこない、この計画を具体的に充実させるという意味でやって欲しいと思います。

学童保育で最初は10数名の利用者が、対象児童の3分の1、70名近い利用があり学童保育のニーズが高まっています。それに答えているのが子育て支援日本一にふさわしいかなと思っています。上垣さんが日本一になりワールドツアーに出場しました。自由にダンスができる環境があったからだと思います。吉野スポーツクラブがバスを買う時、そのバスで二つの学童から、ある曜日は運動公園にダンスをしに行くのはどうかとの話も、学童保育が始まった頃で体制が整っていなかったため却下されました。ダンスをしたい子どもたちも、親が働いていたら習い事にいけない。学童保育の内容も今のニーズに合わせた形で充実させて、カリキュラムの枠をもう少しフレキシブルなものにできたら、この冊子が生きてくるのではないのでしょうか。

(会長)

学童保育の内容の充実、準要保護家庭への支給を前年度に前倒しし、4月に間に合うようにというご意見だったと思います。

例えば学童保育の内容ですが、今一例としてダンスをあげていただきましたけれども、私も親の一人であればダンスがOKだったら塾、剣道もとならないだろうか。保育内容を習い事に学童が積極的になってしまうのは、何かご意見ありますか。

(委員)

テレビで、親御さんが働いている子どもたちが塾に通えないということから、それを解

決するために、公文を学童横に出張開設しているという取組がありました。習い事に行かせるのは親御さんだが、この日は学童から公文に行ってもいいですよという日が週1日でもあれば。そうすると学童の先生がやりにくくなるのかなと思いましたが。学童保育は放課後の家庭教育に欠ける子どもたちの居場所と私は理解しています。そうすると例えば七夕行事の大切な時にぬけられると困るのでその日を避けた学童保育の計画作りになろうかと思えます。学童保育生活を楽しみながらも週に1回は習い事にも行けます、という状況が生まれたらと。安全面は町と吉野スポーツクラブが責任を持つことになりますが。他の個人的な物については別枠になるのかなと思えます。

(会長)

それぞれのニーズをどのようにとらえるか、子育て支援という会議の中で、私も子育て支援に関わる者として、子育て支援って何だろと常に意識をして考えておかないと親の都合に合わせて子どもを預かったり、預からなかったりとならないように、あくまで子どもの育ちを支援する側に立ち続けたいといけないと思えます。一つ一つの行事であったり支援の仕方を子どもの育ちとしてどのように考えていくのかということの意識を高くもっていかないと、親が喜ぶから、親のためになると支援していくと、親と子どもの関係を築けないままになりはしないかなと。今の委員さんの話とは少し違い就学前の子どもたちのことなのですが、その延長線上として就学後の子どもたちの習い事や得意なことだとか、それ以降の学習以外での好奇心の弾み、これからの人生において弾んでいこう内容において行政としてどのように支援をしていくのかということも含め考えて行かなければならない内容かなと思っておりました。

(委員)

先生のおっしゃる就学前の子どもについてはおっしゃる通りだと思います。ただ就学前の子どもはいないと思いますが、小学生になるとダンスの好きな子がいます。運動会の様子を見ていたらすごくよくわかります。リズムにのりのりですごく正確なリズムで踊っていて、子どもたちは踊る事を楽しんでます。

親御さんの様子が私が現場にいる時と変わってきていて、シングルマザーのダブルワークのお母さんたち、今教育委員会が何名ぐらい把握しているのかわからなくて話していますが、私が2名知っているところでは、ダブルワークのお母さん達は送り迎えの必要な習い事をさせられない、子どもがやりたくてもできないということがあったので話をしましたが、何年かかけての論議になろうかと思えますが、提議をさせていただきます。

(会長)

学童保育についてのご意見をいただいたところですが、他の件についてはいかがですが。

(委員)

学童保育の内容についてのご意見を出されましたが、小学校で見えていますと特別支援の必要な子どもも学童に通っている状況があります。子どもが特別な支援を必要としているのにもかかわらずそれだけの対応ができているのか、難しい状況があると思います。そうすると今学童で指導に当たっておられる方々が大変ご苦労されていて、一人一人の対応もできる範囲でしていただいています。その中でトラブルや困った事が起こることもあるだろうなと思っています。そのあたりの充実をこれから考えていただけたらと思います。

(会長)

学校にも支援の必要な子どもたちが特別な支援を受けながら学習を進めていただいています。その状況の子ども達が学童保育に行くと特別な支援が受けられるかどうかという、なかなか難しいのが現状だというお話です。ただ、だからと言ってそこに支援の手を差し伸べないのではなくその所も考えていけるような仕組みを作れたらというご意見だったと思います。学童保育は子どもたちが学校から家庭に帰る、その家庭での学習を学童保育の中ですするという、家庭学習を学童保育ですという一部分もありますのでどの程度支援が必要かという、違う学年の子どもたちが一緒ですので、非常に厳しい状況かなと思います。

(事務局)

学童についてのご意見をいただきました。特別支援の必要なお子様を数名預かっております。町としましては指導員の配置を1名増やし、できるだけ一人一人に応じた対応ができるようにしております。また指導員さんに研修内容の希望を尋ねると、特別支援が必要な子どもたちについて好む遊びや、ペアレント・トレーニングや子どもが自ら身支度ができるようになるよう先々を見通した言葉がけを学びたいとのことから、定期的に県主催の研修を受けています。また、学童の放課後児童支援員認定資格をとる必要があり、吉野町の指導員さんも順次とっていただいています。そういった研修も積みながら、経験しながら技術として身につけていけるように、指導員さんも意識しながらかわっていただいています。指導員さんの悩みも聞きながら教育委員会として指導を行い、よりよい学童保育にしていきたいと考えております。

(会長)

ありがとうございました。何か他にご意見はございませんか。

(委員)

実費徴収に係る補足給付を行う事業について、これから実施されるということですが、最近あきらかに生活が苦しいのかなと、体操服や道具箱を購入していただく時にちょっと

困っておられるなということを感じることがありましたので、実施されるとありがたいことだなと感じました。よしのこども園では山本会長の時に提案していただいて、運営が2年目になりますが制服バンクというものがあまして、卒園したお家の方がこども園に制服等を寄付してくださり、係の方とサイズ別に整理しながら必要に応じて貸し出すシステムです。今まではごっそり借りられる方はいなかったけれども、最近気になる方は、1枚も購入されずにそれを利用して過ごされている家庭が何軒かあります。やはり買うのがしんどいのかなというお家もあったのでこういうシステムがあると、一枚でも新し物を着せたいと思います。これは申請しなくてはいけないのですか。

(事務局)

この事業は生活保護家庭が対象となっております。申請が必要ですがこちらでも状況がわかりますので、お声がけをさせていただきたいと思います。また、今聞かせていただいた、生活保護家庭ではないけれど、少し負担軽減できるような事業が他にないのか研究を続けたいと思います。

(委員)

今の話で、中学生の制服を何枚か、新しい鞆とかいらないかと言ってくれて、吉野中学校の先生に伺うといただきますとおっしゃったので持って行かせてもらうとすごく喜ばれました。制服バンクがシステムとなればいいなと思います。貧困家庭の方たちも含めママ友の間ではお下がりをもらうことができているけれど、制服バンクがあればママ友のいない人も先生が声をかけて利用できるとってもよいシステムですね。それが実現したらいいのと思います。ぜひ卒業するときにお声がけしてもらったらいかがですか。

(事務局)

たしかにより制度だと思います。必要とされている方の家庭に使っていただけるよう声をかけさせていただきます。

(会長)

当初は保護者会からスタートしたという話も伺いましたので、行政に頼らなくても保護者に仕組みができれば動きやすいのかな、親の声を吸い上げていく仕組みであればいいのかなとお話をお伺いしながら思っていました。私たちが私たちを守ろうとか、私たちが同級生の家庭の様々な困難を少しでも手助けしようということができるのであれば横の繋がりといいかなと思っていました。

先ほど、こちらに来させていただいた時もこのことについて見直しをしたという話を伺った時に、生活保護を受けるということに関しては相当にハードルが高い。お金に関して

の収入と支出のバランスをそれぞれの家庭の中で、子どもにどれだけお金がかかってどれだけの収入が必要なのか、これだけの収入があればこんなこともできるかもしれない。

うまくお金を使えなくて、例えば食事にもものすごくお金をかけている、それは時間がないのでつつい外食が多かったり、店屋物的な物が多かったりするのです、そちらにお金がかかっている、そうではなくてお金をこんな風に使ったらもう少し余剰が出てくるのではないかなという講座があってもいいのではないかなと思います。私も以前幼稚園に勤めていた時、保育料を入れていただけない家庭でりっぱな車に乗っていらっしゃるお家がありました。車を軽にしたらすぐに保育料を払えますよと。バランスの悪い支出をされているご家庭には財務の研修もあり、先日の研修ではお母さんたちが熱心に聞いておられましたので、そういうのもいかがでしょうか。

(委員)

小学校には外国籍の子どもが多く在籍しています。よしのこども園にも外国籍の子どもが在園しています。子どもは日本語を理解していくのですが、保護者の方は母国語で話され、日本語を理解しようとされる方もおられますが、理解しようとされない方もいらっしゃいます。このような制度や学校や園のことを説明するのにとても苦労することがあります。その辺のサポートをしていただいていると思いますが、園でも学校でも苦慮しており今後も続いて在籍していく状況があるのでお願いできたらなと思います。

(会長)

園の方でもというお話でしたが、いかがですか。

(委員)

先生のおっしゃられたとおりで、日本語のできる方に電話で手紙を読んでもらったり、サポートをしてもらう方が全くいない方はいらっしゃらないが、園からのお手紙を先生方が平仮名に直したり、ローマ字に書き換えたり、わかってもらえるように工夫はしています。書いてある字は読めても内容を理解することは難しく、再度尋ねてこられる方はいいのですが、わからないままの方もおられて、担任の先生がお弁当がいる時などは個別に声がけをしています。

(会長)

いつだったかテレビで見たのは、学校では日本語で、家では母国語で話をしている中で知的な能力は何も変わらないのに、日本語を読めるけれど深く理解することができないため、学習がどんどん遅れていく現状にある。それは家での母国語と学校での日本語の狭間にたって2カ国語を話せるのではなく、自分の頭で母国語で考えることと日本語で考えることがごっちゃになって今、何をどうすればよいのかイメージができないということです。

今日、子育て支援センターの研修で保育園に行ってきましたが、そこも外国籍の方がいらして、その支援センターに外国籍の方が来られているのをお聞きして、子どもだけではなく、親も巻き込んで支援センターに来てくださると、親同士の関係ができたり、話をしたり、子どもの支援だけでなく親の支援もできる。支援センターに来て下さることは素敵だねと話をしていました。にこにこランドやにこにこルームに外国籍のお母さんを子どもと一緒に来ていただいて、親子のかかわりと親の人との関係を広めていくことが大事ではないかなと思います。先生と親だけではなくて親と親、ご近所の方と学校・園の方以外の方との関わりを広めていく中で、お母さんが日本語で話さざるをえない、日本語でもっと知りたいと意識を向けていくことがとても大事なかなと思います。学校現場の先生は、その方が地域でどのような暮らしをしているのかなかなか見えないけれど、どんどん地域の中に引っ張りこんでいく、そこで関わりをもっていく、それが子どもの将来の学習とも繋がっていくのではないかなと思います。

(事務局)

今お話いただきました外国籍の子どもの保護者の方についてですが、園や学校でご苦労いただいていることもよくわかっております。町としましては、十分ではないのですが、子どもの日本語指導と合わせて保護者の方と学校との意思疎通がうまくできるようにと保護者の方の通訳として、時間は少ないですが、通訳の先生に行っていただいています。ただ今の時間では十分ではなく、その部分を園や学校の先生方が補って下さっているのだなと思っています。もう少し時間数を増やすなど、努力をしていきたいと思っています。また、ひろばへの親子の参加ですが、今来られている方の中にも外国籍の方もいらっしゃいますが、ご夫婦どちらかが外国籍の方でご夫婦とも外国籍の方の参加は少ないです。そういった方々は保健センターの健診には来ていただいております。にこにこなど未就園児親子の集まる場に来られなくても、保健センターで何か親同士の交流ができるような機会ができるよう考えていきたいと思っています。

外国籍の児童の話としまして、今、地域おこし協力隊の外部人材の力を借りようとしています。学習支援として中学校に1名入っておられますが、特に南米の語学ができる方、スペイン語、ポルトガル語の堪能な方の募集をし、たまたま南米の大使館にお勤めの方が帰国されるということで吉野へということでもうまもなく帰国されると思います。そういう人材の力を借りまして 今園長先生がおっしゃっていたように、言葉を十分に理解していただかないとコミュニケーションをとれないので、そこは外部人材の力を借りて、心と心の通い合いの部分を目指して取組を進めようとしているところです。

(委員)

本校に日本語指導で来ていただいている方がいらっしゃいますが、日本語指導で来てい

ただいている時間は子どもたちにかかわって下さる時間です。その方は絶えず保護者の方とメールのやりとりをしてくださっています。この間の台風の時もずっとメールのやりとりをしていて、「何かあった時この人たちはどこに逃げていいのか、どういう風にしていいのかわからないので、私がニュースを見ていて、危なかったら～に逃げなさいと教えてあげている」と話してくれました。そういう風に日常から関わりができる方がおられないとなかなか学校の様子も伝わりにくし、生活の中で困っていることも学校に入ってきました。大変よい動きをしてくれるので助かっています。

(会長)

毎日の生活の様々なところで困り感を抱えていらっしゃる方がおられる、親の困り感にどれだけ地域の者として関わる事ができるのか、困り感に共感しながら少しでも手を差し伸べる私たちがいたいと常に意識をしております。世界で一番難しいと言われる言語が日本語ですので、この日本語の習得には相当の覚悟が必要かなと思います。このことを少し意識しながら関わらせていただければいいなと思います。

いろいろなご意見ありがとうございました。その他何かございますか。

(委員)

この冊子（子ども・子育て支援事業計画）の中に安心して外出できる環境の整備で町道の新設・改良を計画的に進めますとありますが、これは莫大なお金のかかることで、これはおいておいて、この中身を子どもたちに当てはめると、よしのこども園のこどもたちは七夕の前に川沿いの道を大きな竹をみんなでヨイショ、ヨイショと群がって運ぶじゃないですか、あれを見て感動して涙が出そうになったのですが、あの子たちが歩く所が、グレーチングのふたが外れているとか、アスファルトがボコボコになっているとか、そこを少しお金をかけてよくすると、子どもたちの園外保育が安全なものになると思ったのと、わかばこども園は、山の上の昔の通学路を歩いて愛炭塾へ行くんですね。愛炭塾の方々があの山道を歩いてきてくれるとすごく楽しみにして、あの人たちの生きがいになっているんです。町道の新設・改良はもちろんですが、具体的な内容としては、園外保育の道に配慮していただいて、例えば子どもたちが出かける時は「鹿が出たところ」などの道しるべを置くとか。そうすると5年度、この事業計画がどうであったかという事業評価をするときに、子どもたちに目が届いた事業ができたなど、携わってくれた方が思うような、小さな部分でできることを積み重ねられたらと思います。

(会長)

隅々のところで行政としてもできるところから、取組いただけるものと思いますのでよろしく願いいたします。何かご意見がありましたら戻らせていただきますので、その他に移らせていただいてよろしいでしょうか。

(事務局)

事務局からは特にございませんので、会長先生からよろしくお願いします。

(会長)

特にその他について報告はないようです。今いろいろな所からご意見を出していただきましたけれど、それに関わらず吉野町の子ども・子育てについてご意見等ございませんか。

(委員)

よしのこども園から制服バンクの話が出ていましたが、わかばこども園では育友会事業としてママサークルを立ち上げていて、年3回ほどですがその中で親御さんたちが古着を持ってきて交換をしています。その中で余った物を園で保管しており、にこにこ等で欲しい方にもらっていただく取組をしています。あまり大々的にはしていないのですが、報告させていただきます。

(会長)

ありがとうございます。上からこうしようと言うのではなく、下からこんな事やっていますという雰囲気を作らせていただけたら嬉しいなと思います。

この辺で終わらせていただいてもよろしいでしょうか。

それでは議事をすべて終了させていただきますので、事務局の方から何か連絡事項がありましたらよろしくお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。本日が2年間の委嘱期間の最後の日となっています。今日お集まりの皆様の中には、引き続き委員として参加いただく方、また次の方に引き継ぐ方がいらっしゃると思います。皆様から子ども・子育て会議に関わっていただきましたご感想など聞かせていただきたいと思いますとおもいますので、よろしくお願い致します。

(委員)

4年前に区長連合会の副会長をしております、区長連合会の代表として参加させていただきました。そろそろ区長が変わりますので、これで終わらせていただこうと思っております。これまで会議でずっと子ども駅伝のことを言っていました。今年も11月15日が発足式です。これから3月まで週2回、練習を行って参ります。吉野町はこれから上がっていく一方で期待していただきたいと思っております。皆様方もご支援をお願い致します。

(委員)

わかばこども園の28年度の会長をさせていただき、今回は最後ですけど、最初は何をするのかな、基本は何だろうと考えながら参加していました。吉野って少し特殊な地域だから、塾行くのも電車で行けないとか、運動も習い事もリスクイかなと、その中で少しでも子どもによいように考える会議なのだと思いながら参加していました。続けて会議をしていただけるのなら、一人一人に手厚い教育をお願いします。

(委員)

なかなかこうして地域の方や区長さん、議員の先生や校長先生などいろんな方が集まって子どもたちのことについてお話させていただく機会がないので、本当に4年も経ったのかなと毎回勉強させていただくことが一杯でした。今こども園を開園して3年目で、まだまだ未熟なところも沢山あるので、皆さんの智恵やお力を借りながら、子どもたちが生き生きと元気で笑顔の絶えないようなこども園になるよう、私たちが頑張りたいと思っています。ありがとうございます。

(委員)

先ほど子どもたちが少なくなっていくという状況を目の当たりにして、園単体で考えるのではなく吉野町全体として考えていかなければいけないなと感じました。今まで沢山あった園も2園になり、力を合わせてやっていきたいと思います。よろしくをお願いします。

(委員)

7年前頃、子育て支援、子育てサポーターという言葉が聞かれ始めた時に吉野町から研修を受けさせていただいて、子育て支援に関わるきっかけになったのですが、それが子ども・子育て会議に参加させていただくことになった理由の一つです。私は吉野町で幼稚園が8園あった最後の年に仕事をやめました。その頃は大勢の先生方と研修を沢山させていただき楽しくお仕事をさせていただきました。今、少し現場に関わる日があって、先生方の忙しさと時間のなさをものすごく感じています。とても熱心に頑張ってくださいているのですが、先生方がもっと研修ができる環境であればなと思っています。先生方や教育委員会に意見もありますが、この会議に参加させていただいて勉強させていただいて、こんなにいろいろ考えてくれていることがわかり、いろんな事を尋ねられても答えられる一つの資料もできたかなと思います。今後も子ども・子育て会議を続けてやっていきたいと思っています。

(委員)

学校で子どもたちと関わること、こども園と交流・連携していく中で思ったりしている

こととお話させていただきます。こども園の子ども達が校長先生と呼びかけてくれる姿、それが今、小学校で地域の方で見守りボランティアで関わってくださっている人たちに「おはとうございます」「さようなら」と言っている子どもの姿と重なるところがあります。園や学校だけで子どもを育てていくことは難しい状況になっていることは確かかなと思います。地域の方々、PTA・育友会・保護者の方々が同じ方向で、子どもたちを見守って成長させることを考えた子どもへの接し方、また指導をしていけたらいいのではと思っています。るところです。

会議に来させていただいて、中間年の見直しとして、こういう事業もしていきますと聞かせていただいて、行政ではこうしてくれている、では学校ではどうしなければいけないかなと考えながら聞かせていただいていました。ありがとうございました。

(委員)

教育現場の人だけでなくいろいろな角度から広がっていくのは、大事な、こんな機会はありませんのかな、とても大切な会議だと思いました。見直しされた部分の一つずつ実現して5年後の総括の時に前向きの明るい総括ができるような内容がいくつもあれば、皆さんが苦勞して作ってくださった事業計画が生きてくるなと思います。委員であってなくても皆さんの目指そうとしておられることに寄り添っていきたいなと思っています。

(委員)

私は2期、自分自身がこども園の会長をさせていただいている時に入らせていただいて、その時は自分自身も育友会の活動に熱心に取り組んでいたことを覚えています。役員から離れてしまうとういう席で代表として発言することが、これが全体の総意なのかというところに自分なりに疑問を感じながら発言している部分がたくさんあったと感じます。役員を離れてからもこども園の活動にもう少し熱心になって、その状況を捉えておく必要があったのかなと自分なりに反省します。保護者の代表としてこういうところでいろんな発言をさせていただくことは難しいなと思います。この計画を立てていく時はアンケートを取って頂いて、親御さんのニーズがどこにあるのかということ調べて頂いているということ、5年後実績を出される時はそういうことをされると思うのですが、日々町内の子ども親御さんがどんな形でどんなことを悩まれているのか、私ももちろん保護者としていろんな形で聞いていきたいなと思いますし、ここにいらっしゃる皆さんがそういう形で寄り添っていただくことが、最終自分自身の子どもの子育てに役立つことに繋がるのだろうなと考えると、自分自身もこれからはもう少し一歩前のめりになって子育てのことを考えていきたいと思っています。私も同じですが、今日でおやめになられる委員さんも吉野町の子どものためだと思っていただいて、一緒に子育てをしていただける環境をこれからも吉野町で作っていただきたいなと思います。ありがとうございました。

(委員)

4年前連合PTAの代表として委員に入らせていただいて、そんなに早く日がたったのかなと思っています。私には3人娘がおりまして一番下の子が中学校3年生になりました。連合PTAで本当にみなさんに助けていただいて、こういう会議に参加させてもらい、いろんなことを知ることができました。ただこの事を連合PTAの皆さんに広げていくことがなかなか難しいなと今感じています。少し前ですが、3人娘の一人が何も問いかけをしていないのに「私はこの吉野で住みたいね」と言ってくれました。親が強制的に「ここで住まなアカんで」と言ったわけでもないのですが、そういう子どもの一言を聞くと、この吉野町で地域の方に見守られて一緒に学んで育ってきた思いが、今そういう一言になってきているのかなと思いました。大変有りがたいというか、嬉しい思いでいます。男の子だったら家を継いでという思いがあるかもしれませんが、うちは女の子ですので、どちらかと言えば出やすい感じとされているのですが、成人になるとどうなるのかわかりませんが、皆さんのおかげでそういう思いが宿ってきている、子どもの心を動かしている力になっていると思います。今後とも皆さんのいろいろな意見を集めていただいて、よりよく子どもたちがすくすくと育って輝き、日本一の子育ての町として輝いてくれることを願っています。私もこれで任期になってしまい大変寂しいけれど、新しい方々のいろいろな意見をいただいてさらに一層磨いて光っていくものにしていただきたいと思います。ありがとうございました。

(委員)

吉野町と奈良北部に住んでいる者が何の関わりがあるのだろうと疑問に思われた方もいらっしゃると思いますが、森本先生から依頼を受けまして子育て支援者の講座の講師として3年ほど関わらせていただきましたでしょうか、そのご縁で子ども・子育て会議の委員として関わらせていただきました。4年前の当初は、こども園をどんな風に作っていくのかが一番大きな問題だったかなと思います。会議の回数も多かったですし、本当に細かい問題を少しずつ詰めて今に至っています。

先ほども吉野町は特殊な地域で近くに塾もないし習い事にもいけないしというお話もありました。たしかにリスクな面はおありかなと思いますが、それを何か良さにかえていくことはできないかなと、こちらに関わらせていただいている時からずっと思っていました。みんながみんなを知っている、みんなで一人を育てているのは吉野だからこそできることかなと思います。奈良のクラス数が2つも3つもある所で、校長先生が1年生から6年生までのみんなを知っていて、確かに子どもはみんなご存じかもしれませんが、その奥にある親御さんがどんな様子で、誰と誰が兄弟関係で、誰と誰がお友達でというところまで知るということは、吉野町であっても学校・園の方しかわからないと思います。園長先生や校長先生のお話からそんなことが伺えました。みんながみんなを育てる、みんながみんなを知っている、そういう地域であれば子どもは塾に通わなくても心優しく穏やかに、

人としての塾がここにあるのではないかなと伺っていました。4年間2期務めさせていただきました。本当にかき回すだけの会長で申し訳ないなと思いつつ、毎回喋りすぎたと思っていました。でも皆さん本当に快く聞いていただきましたし、委員の皆さんがいろいろな意見を臆せず行政にぶつけていただきましたし、私はその意見を言っていたいただいた空気がとても心地よいなど、いろいろな意見が飛び交う会議であって欲しいなと思っています。4年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(事務局)

皆様、ありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえて、引き続き子育て支援体制を充実させていきたいと考えております。

次回の会議につきましては6月頃の開催を予定しております。日程は追って郵送にてご案内いたします。また、会議録につきましては、できあがり次第、署名委員の方に署名いただき公開させていただきますのでよろしくお願い致します。

それでは終わりの挨拶を教育長から申し上げます。

(教育長)

2時間という長時間にわたりまして熱心にご審議いただきましてありがとうございました。また、和田会長には、本当に充実した審議をスムーズに進めていただきましたこと、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また、委員のみなさんには審議途中のご意見も本当に吉野町の子育てを考えてのご意見を出していただいていることがよくわかりましたし、最後の一人一人のお言葉もまさに子どもたちのことを考え、子育て支援のことを考えていたからこと出てきた言葉かなと思う言葉が、それぞれの皆さんの言葉の中にございまして私の心の中に残っております。このことにつきましても本当にありがとうございました。

私の方、本来は2月に皆様にお会いいたしますことになっておりましたが、親戚の不幸事で皆さんとお会いすることができませんでした。今日が初めてということでございます。子ども・子育て支援事業計画を見せていただき、又担当者からこれまでの経緯を聞かせていただくと、この計画作成にあたり携わっていただいた方が多くおられます。先ほどからも委員の方で今回でというお話もいただいておりますけれども、まさに皆さんのお力で吉野町の子ども・子育て支援事業計画ができ、そして毎年毎年こういった形で審議をしていただいで進捗状況をご検討いただいで、今後どうしたらよいかというご示唆をいただいで、私どももこの計画に基づいて支援事業を進めております。ただ私自身反省すべきことが、この案を出させていただく時に、最初は数値の見直しは行いますが事業の内容について、もう一步踏み込んだ形での取組が出てきませんでした。それに対してもう一步前に前進していくべきことであろうと再度この案を作成させていただきました。皆様方のご意見を聞かせていただいで事務局として恥ずかしい思いをいたします。再度話し合って本当によか

ったなど、以前の案を出していたらどうだっただろうと、私自身恥ずかしい思いをしております。審議の中で皆さんの中から出てきた言葉は、この基本計画の中の視点というところで、視点1は「子どもも親も成長できる」、まさに親子一緒にすることで成長できる、先ほど和田会長の方からどういう子育て支援が大事なのかということがございました。保護者のニーズを捉えながらどういう子育て支援をしていくのか、私自身その答えがこの中に書かれていると思います。やがて親になった時自立して家庭を持つことができるような子どもを育てるために支援を行っていく、そのためにはどのような支援が必要なのか、まさに子どもも親も共に成長できる、先ほど愛炭塾に行くところの道の話が出ました。地域全体で子育てを支えていく環境を作っていただいている、教育委員会が中心になりながら学校・園と保護者が共に子どもたちが学習しやすいように環境を整えていく、まさに二つの視点だなと感じました。今日、ご示唆いただきましたことを、またこの二つの視点をもう一度私たち教育委員会事務局ものが、しっかりと心にもち、これから子育て支援を進めていく覚悟でございます。今後とも委員を続けていただける方は当然、またやめられましても引き続き吉野町の子育て支援にご協力をいただきますようお願い致しまして、終わりの挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

(事務局)

これをもちまして閉会とさせていただきます。皆様ありがとうございました。

吉野町子ども・子育て会議運営要綱第3条第2項の規程により署名する。

署名委員

署名委員